「話すこと・聞くこと」分科会

　　多様性を尊重し、言葉を通して自他を認め合う生徒の育成

～「話すこと・聞くこと」のスキルマップを活用して資質・能力を育む～

香川県高松市立龍雲中学校　磯　﨑　俊　博

１　提案要旨

SNSの革新的な普及や、コロナ禍の影響により、対話力に不安を抱えている生徒が多く見られる。そこで、「話すこと・聞くこと」の資質・能力を習得・活用し、実際の生活場面でも互いの考えを伝え合えるような授業のあり方を提案することにした。

２　実践の概要

1. スキルマップの作成

　　　学習指導要領の内容を参考に作成した。生徒にとって必要なスキルや目標が可視化され、また教師の授業改善にもつながるようにした。

　(2)　授業実践

【単元で育成したい資質・能力】相手を説得できるように論理の展開などを考えて話を構成し、また聞き取った内容を評価し、自分の考えを深めること。

〔思考力・判断力・表現力等〕Ａイ・エ

【言語活動】自分の考えや主張を話したり聞いたりして評価などを述べる活動。

①　R4年度「人工知能との未来　人間と人工知能の創造性」（光村図書　3年）

文章の理解を深めるための話し合いが、立場や主張を明確にすることで充実した。ねらった資質・能力の習得のためには、スキルマップが必要と感じた。

「君は『最後の晩餐』知っているか　最後の晩餐』の新しさ」(光村図書　2年)

スキルマップの「集める」に焦点を当てることで、話すことに深まりが生まれた。またスキルマップの活用により、自分のつまずきに気づくこともできた。しかし、「読む」活動としてのふりかえりを書く生徒もおり、目標を明確にする必要性が見えてきた。

②　R5年度「作られた『物語』を超えて」→「具体化・抽象化」(光村図書　3年)

論理の展開について評価するという活動で学んだことを生かし、「具体化・抽象化」を使って一つの言葉の解釈について話し合う言語活動を行った。話し合いの後は個人に戻り、ICT端末の録音機能を活用して、自分の意見を再構成する場を設定した。

３　成果と課題

　(1)　成果

　　　目的をもって話し合うことで、言葉の多様性を感じることができた。また、スキルマップを用いることは、教師にとって指導・評価の指針となった。生徒にとっても、どの資質・能力が身についたかが明確になり、足りないスキルを確認することにつながった。ICT端末の活用は、ふりかえりや評価を行いやすくさせた。

(2)　課題

　　　評価の計画を示すときにもスキルマップを活用したい。また、話し合いの質を高めるためには、「話し手」と同時に「聞き手」を育てることも大切である。今後は、習得したスキルを他領域でも用いて、人と関わり合う力が高まるようにしていきたい。